

障害のある個人に対する自己決定の支援
- 教育サービスプロバイダーに対する「自己決定支援パッケージ」の検討 -

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター

本研究では、教育サービス・プロバイダーである養護学校中等部の教師3名を対象に「自己決定支援パッケージ」を提供し、その導入による教師や生徒への影響を選択機会内評価と選択機会間評価という2つの評価軸をもとに検討することを目的とした。

各参加者への自己決定支援パッケージの効果を検討するために、参加者間多層ベースラインデザインを適用し、ベースライン、選択機会内評価フェイズ、選択機会間評価フェイズ、フォローアップの順に実施した。自己決定支援パッケージの内容は、・自己決定に関する講義、・スタッフ・トレーニング、・選択機会設定支援チェックリスト1、・選択機会設定支援チェックリスト2で構成された。行動の指標として、参加教師については・選択機会設定スキル（選択機会内評価）と・選択機会の内容（選択機会間評価）を、参加生徒については選択機会1試行内で見られる、・選択機会への参加（接近）の方法、・選択肢を選ぶ方法、・選んだ選択肢、・選んだものを実施している時の様子を採用し、観察、記録を行った。

その結果、パッケージの中でも選択機会内評価に関わるスタッフ・トレーニングと選択機会設定支援チェックリスト1の導入によって、参加者の選択機会設定スキルが向上し、選択肢の数も一時的に増加が見られた。しかしながら、選択機会間評価に関わる選択機会設定支援チェックリスト2の導入では、選択機会設定スキルは高い遂行率で維持されていたものの、選択肢の数、選択肢の種類などの拡大に関して影響は見られなかった。また、パッケージ導入期間終了2ヵ月後のフォローアップで、選択機会を継続して実施していたのは1名のみであった。

これらのことから、本研究で実施した自己決定支援パッケージは、選択機会設定スキルの形成、維持について効果があることが示され、選択機会の質の拡大や長期的な選択機会設定の遂行を維持させることについては今後改善の余地があることが示唆された。考察では、・自己決定支援パッケージ導入による参加者の選択機会設定行動への影響、・Fair Exchanger Marker（公正交換指標；望月・野崎，1999）についての検討、・今後の課題を述べた。